



ボランティアの受入れプロセス



ボランティアが力を発揮する条件

- ✓ **自発的**に参加している
- ✓ 団体の使命（ミッション）に**共感**している
- ✓ 情報は**オープン**かつ**共有**されている
- ✓ **社会課題**をきちんと知らされている
- ✓ **適材適所**で活動できている
- ✓ アイデアや**意見を言う場**が確保されている

ボランティアがいきいきと活動するための条件

- 団体のなかで、ボランティアの**参加を重視**する風土がある
- ボランティアが**参加できる場**（会議や交流の機会）を整理して、わかりやすく示している
- ボランティアの活動を推進する**担当者がいる**
- 事業に追われずボランティアのことを考えられるような**余裕**がつくれている
- オリエンテーションなど、ボランティアを**受け入れる際の仕組み**をつくっている
- 交通費など活動にかかる**経費について整理**できている。（全て団体に負担する必要はない）
- ボランティアの**役割や位置づけ**を明確にしている
- 研修制度など、ボランティアが**ステップアップする機会**をもっている
- ボランティアが**意思決定に関わる**ことができる仕組みをつくっている
- ボランティアに活動があっていないときに、別の活動を紹介するなど**柔軟に対応**できている
- **事故や危険**などを想定して、できるだけ**対策**を練っている

ボランティアの面接（例）

◆ 面接で聞いておくべきこと

- ✓ 活動への参加動機
- ✓ これまでのボランティア活動歴やその感想
- ✓ 活動に生かせる特技や資格
- ✓ 活動できる時間帯や期間、場所、交通手段
- ✓ 性格や志向性

◆ 面接で聞くべきでないこと

- ✓ 未婚、既婚
- ✓ 学歴
- ✓ 職歴や収入
- ✓ 宗教や政治上の主義

◆ 面接で伝えるべきこと

- ✓ 組織の目的・使命
- ✓ 募集しているボランティア活動（プログラム）の目的や内容
- ✓ 参加の条件、求めるボランティア像

ボランティア活動におけるリスクマネジメント

- ✓ リスクに対する**共通認識**を持ち、個人のレベルではなく、**組織的**な活動として取り組む必要がある
- ✓ 「リスクマネジメント」とは、リスクを**ゼロにすることではない**。リスクをとることによる利益を得るために、リスクを**コントロール可能な状態**に置くこと
- ✓ リスクに対する**予測と対策**を検討し、リスクに強い活動・体制をつくることで、その軽減を図る。安心して、安全に活動に参加する上で重要な要素
- ✓ 失われるものは、団体の持つ**あらゆる資源**【ヒト・モノ・カネ・情報・信用】

事故データからみた

事故防止・軽減に向けた 10のポイント

ボランティア活動は、参加を決定したときから始まります。事前の情報収集、準備を徹底し、活動中はもちろん、活動場所と自宅との往復途上も気を抜かず、慎重に行動することが重要です。

右に記載する10のポイントは基本的なことばかりですが、改めて確認してみましょう。

無理は禁物（体調・体力）

無理をすることは事故を起こしに行くようなものです。活動者自身だけでなく、周りの人たちのリスクも高まります。

事前の情報収集と安全確認

事前の情報収集・安全確認・日常点検でリスクを予知しましょう。熱い気持ちだけでなく、冷静な判断力も必要です。

活動に適した服装

帽子、軍手、運動靴などの事前準備で、転倒や熱射病等の防止をしましょう。

あせらず・気を抜かず

自宅を出てから帰るまでが活動です。集合場所に遅れそうなら連絡をしてあせらず向かい、現地での活動を終えても自宅に帰るまでホッとして気を抜かないことが大切です。「慣れ」が事故の基となるので、活動中は常に慎重な行動を心がけましょう。

準備運動・柔軟体操

ボランティア活動はスポーツと同じ。体をほぐし、あたためてから活動しましょう。

注意事項をよく聞く

責任者の説明をよく聞き、リスクを認識し、その対策を再確認しましょう。

休憩と水分補給

疲れたら遠慮なく休憩をとりましょう。疲れは事故の原因となります。水分補給で熱中症を予防しましょう。

過信禁物

いまの自分にできること、できないことをしっかり認識しましょう。「以前はできた」が一番危険です。

足元注意

事故原因の多くを占めている転倒、転落を防止することが大切です。「足元注意」をメンバーで声かけしあいましょう。

周囲の人との協力

単独では行動せず、できるだけ複数で行動しましょう。声のかけあい、情報共有が大切です。

<求める人材像>



(例)

- 18歳から30歳までの女性で、不登校や引きこもりの問題に関心があり、そのサポートに携わりたいと考えている人。
- 対人援助技術の研修の受講経験があることが望ましい。
- 那覇市内在住であれば、なおよい。
- なお、これまでのボランティア活動の経験の有無は問わない。

<活動プログラム>

- いつ・いつまで
- 誰が
- どこで
- どんなことをする

<受入れ手順>

- どのような手順で進める？
- どのように募集を行う？

<費用（コスト）>

- どのような経費がかかる？

<ボランティアの募集>

1. 求める人材像に届く広報手段を考える

- チラシ（設置や手渡しに適したサイズ・新聞折り込み・ポスティング・貼り紙）
- 無料告知（新聞・webサイト・フリーペーパー）
- 口コミ、専門機関、教育機関など

2. 求める人材像に届くメッセージを考える

- どんな地域のどのような課題に向き合っているか
- どのような活動をするボランティアを求めているか
- 活動に参加することで、人々の暮らしや地域はどのように変わるのか など